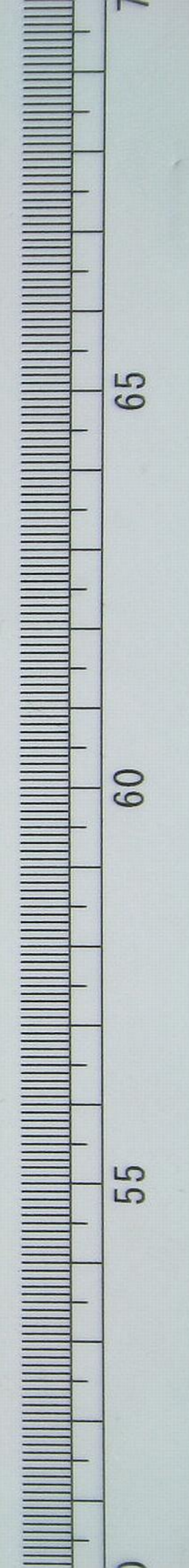


芳川俊雄 関

夜嵐 於 鬼 奴
花 迺 仇 夢

四 郎



夜嵐

かきぬ

花の仇愛

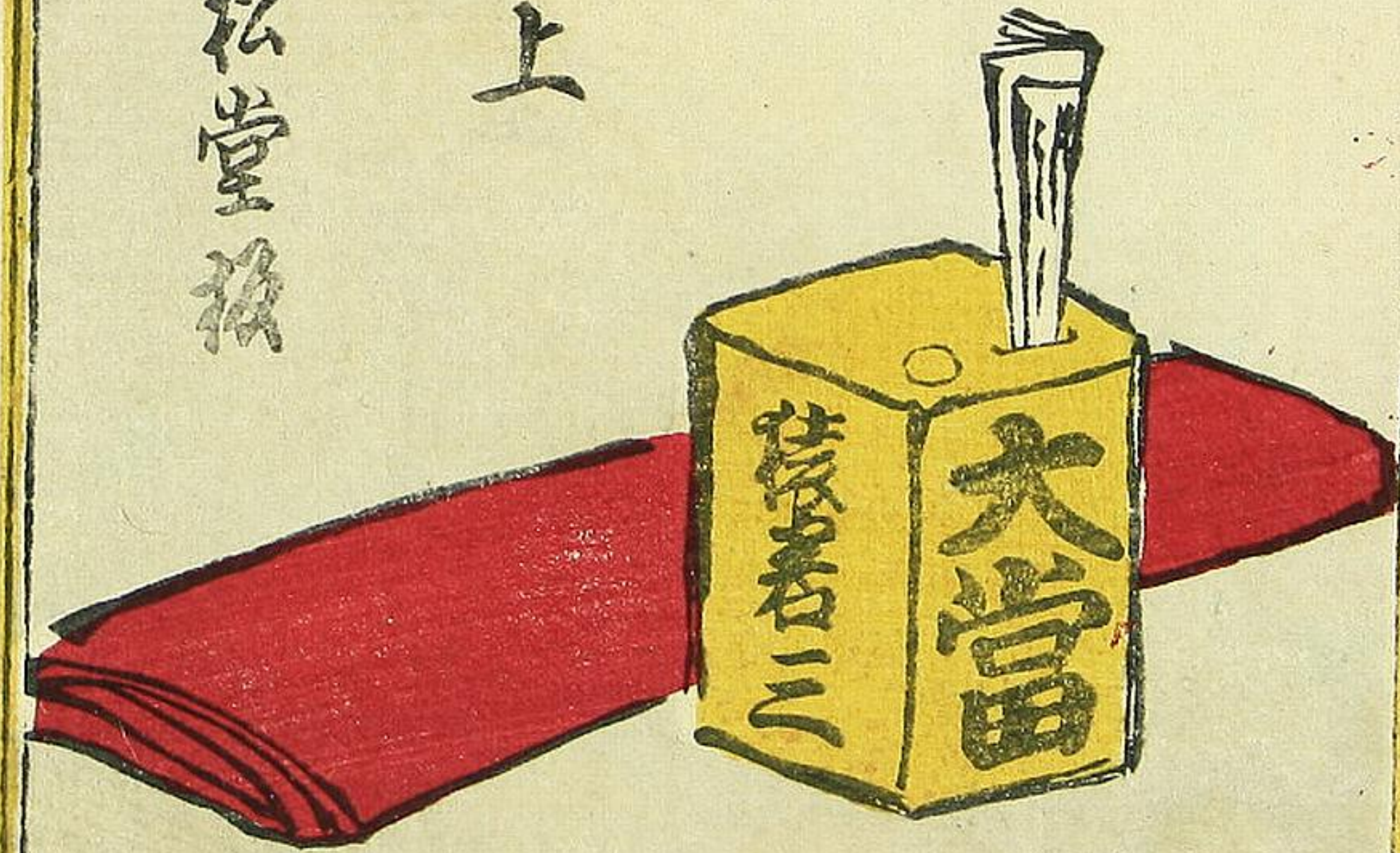
四編上

芳川俊雄 園

岡本勘造 綴

永徳孟 絵画

金松堂 校



48-8107

花の仇愛の夜嵐の巻目と幡隨院の巻目が岡本勘造の
 色紙の巻目と合さず「この終り傳之の通り文句は是れ其の
 葉の夜の際あやうく早編かしてお好法風標榜をスツト當世
 市川の回廊の形をいふ此回も標榜の後一編の葉を
 刺然染を漸次入る色は是れ一番満ちて見ておらん様と
 して交うのり下緋屋のてを中屋の子間取の後は遠く延してお
 たの早くくの雁燈にや半法返解もコシヤと切迫眠る眼を
 突張るは仕事乃ハケ法いばうを叩いて解交ふか

明治十一年十月下旬

岡本勘造誌

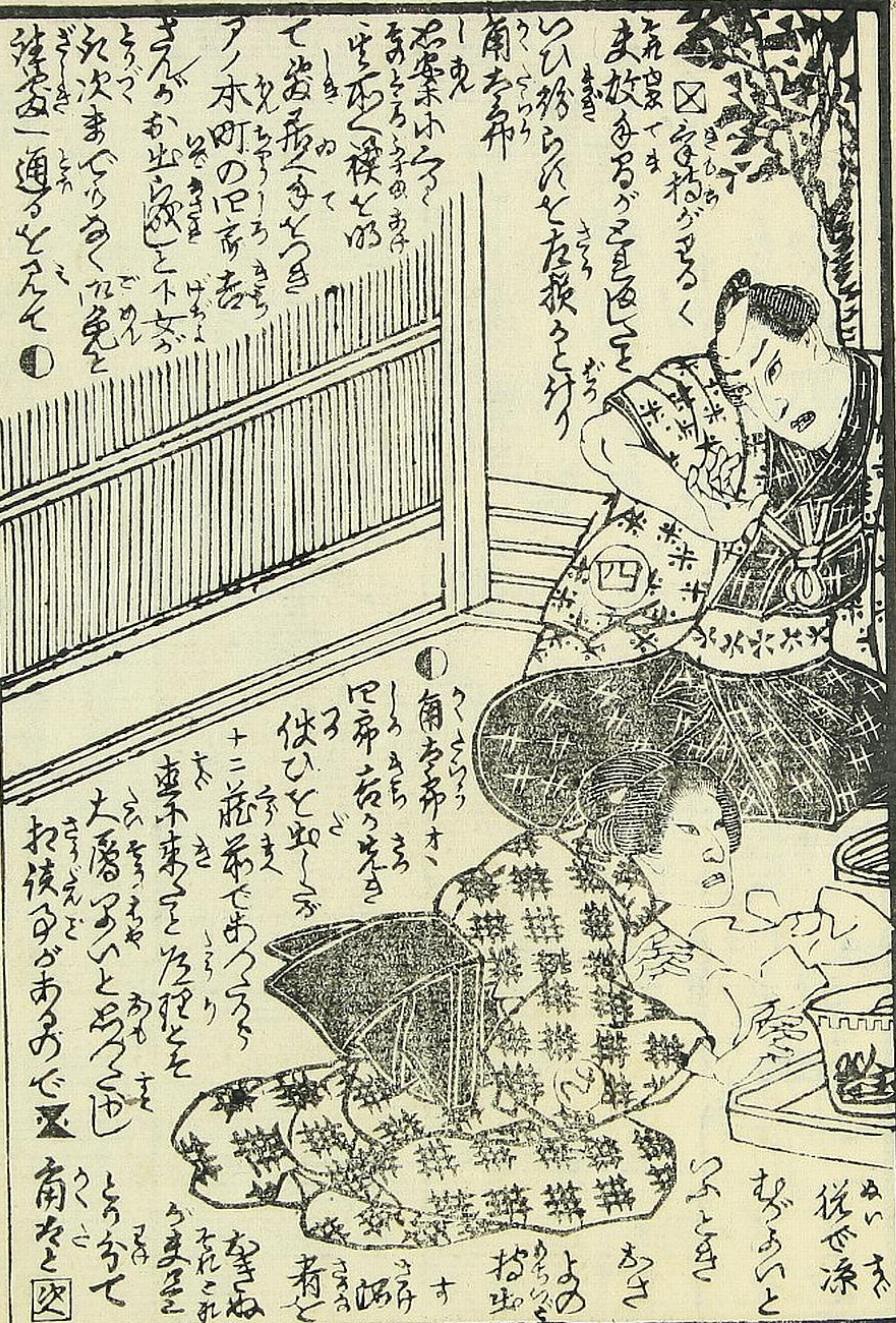




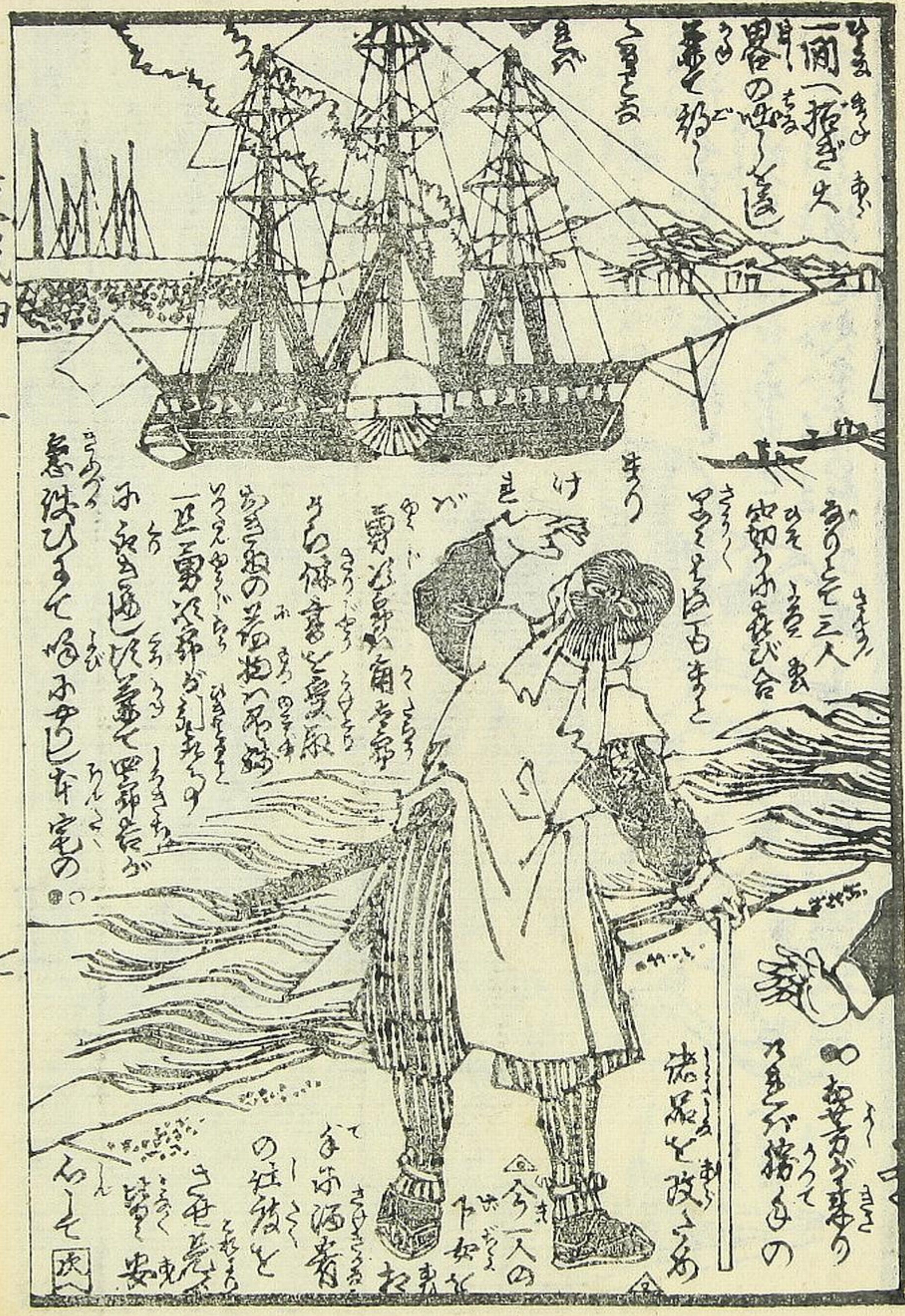
おきつゝあつた
委細と花一夜板をうへ
何れもく南老の剣(進)といふ
今更におきつゝあつた
清じり異ふまけと



おきつゝあつた
委細と花一夜板をうへ
何れもく南老の剣(進)といふ
今更におきつゝあつた
清じり異ふまけと



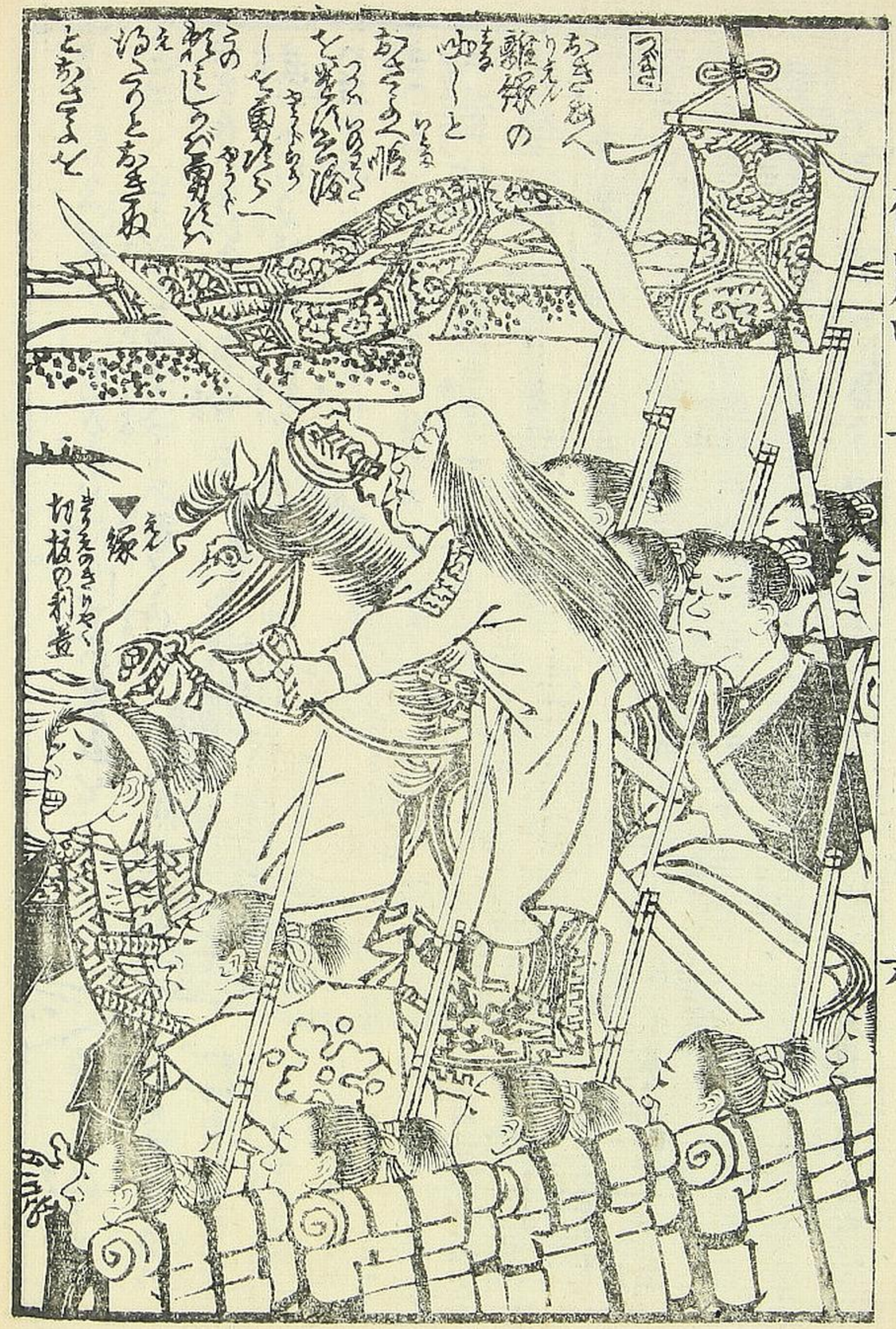
おきつゝあつた
委細と花一夜板をうへ
何れもく南老の剣(進)といふ
今更におきつゝあつた
清じり異ふまけと



一箇一振り大
 船の帆は風
 船の帆は風
 船の帆は風

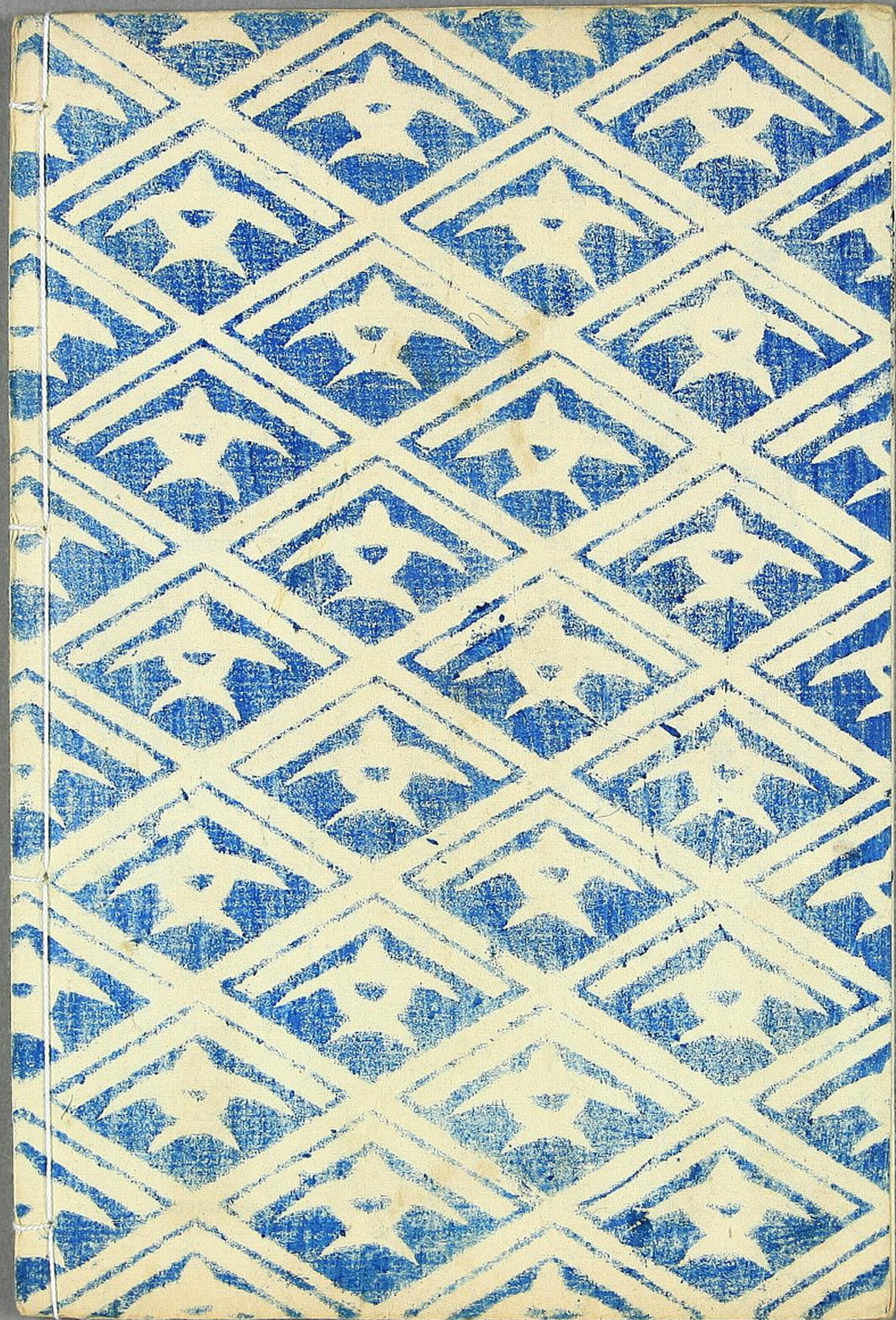
まのこ三人
 船の帆は風
 船の帆は風
 船の帆は風

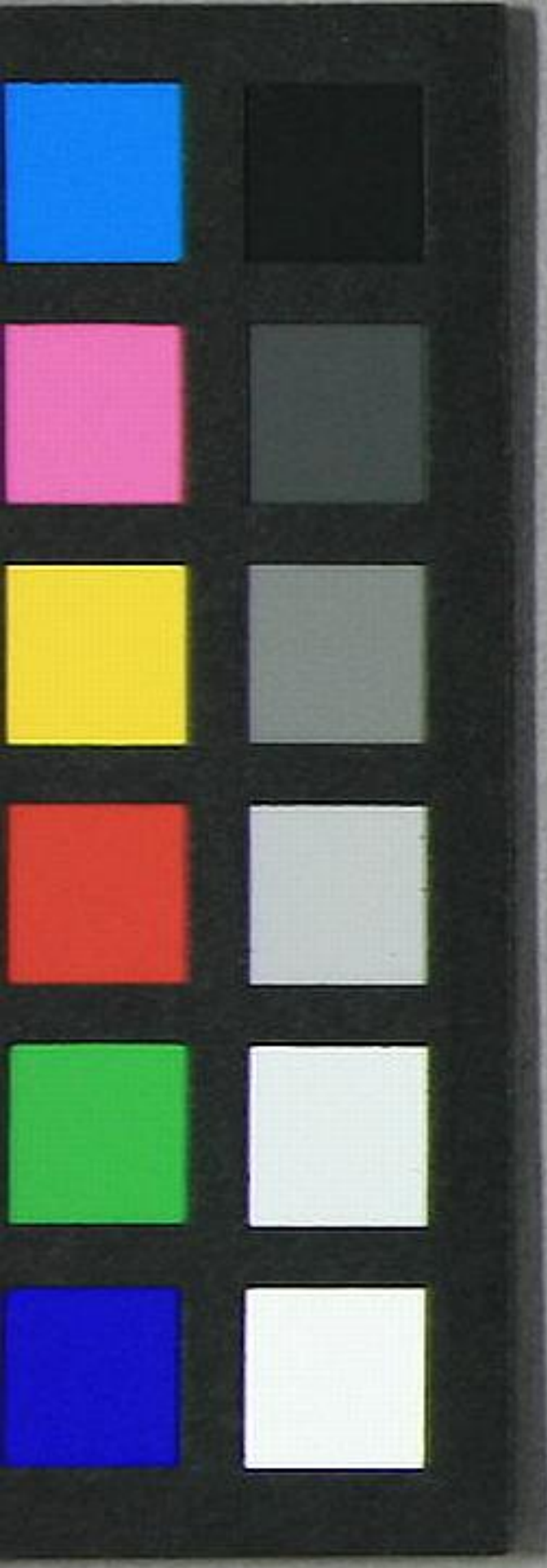
船の帆は風
 船の帆は風
 船の帆は風
 船の帆は風



船の帆は風
 船の帆は風
 船の帆は風
 船の帆は風

船の帆は風
 船の帆は風
 船の帆は風
 船の帆は風





新河

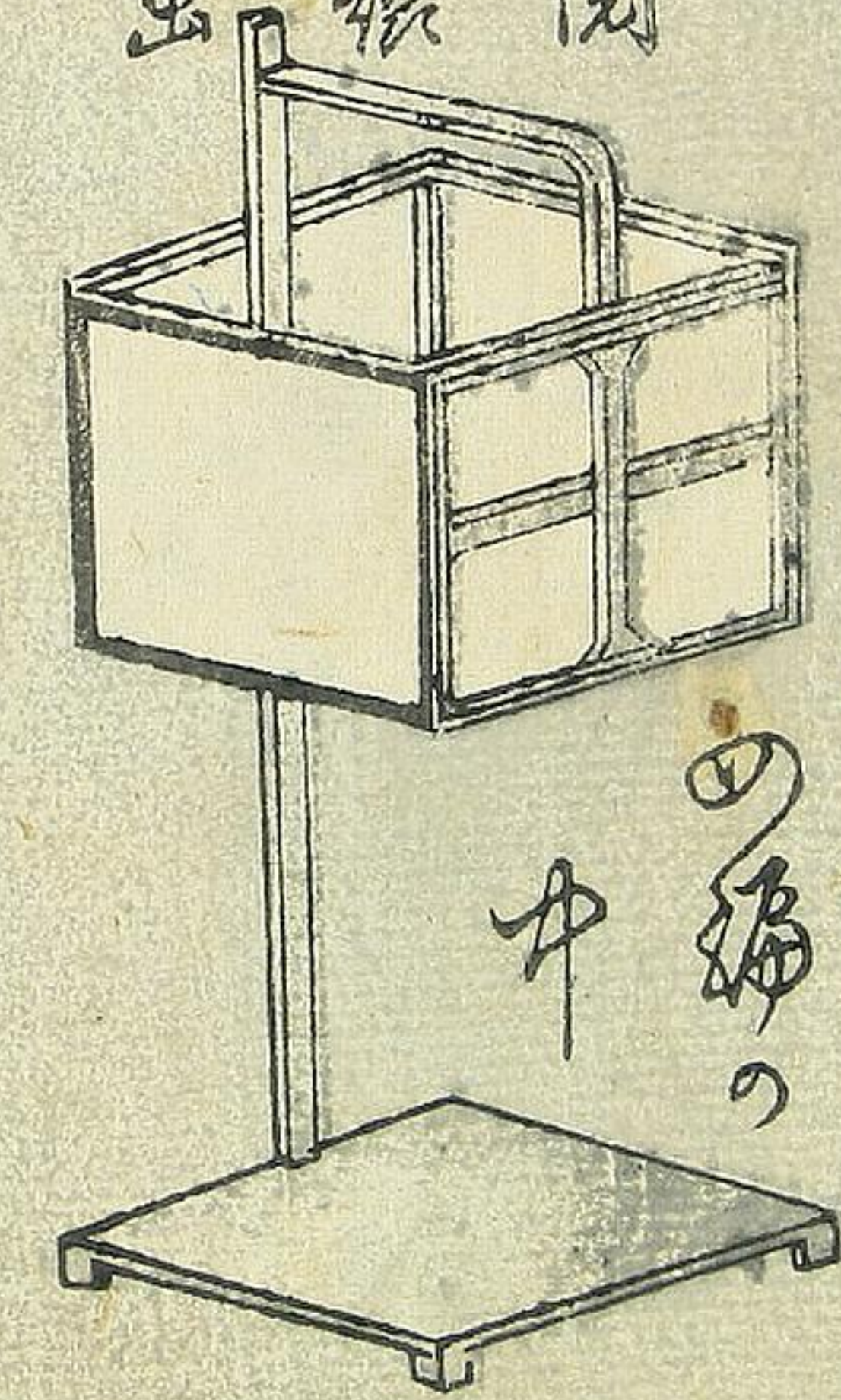
おき

むす

重松

書

芳川信雄園
園本勲造
永島孟高画



の編の
中



48-8105

上りの色 地を抜たてて...
園本勲造
永島孟高画

▲機かけ物へ返る...
の用意...
の用意...
の用意...

上りの色

1



園松

けつりて

東の舟と目
散小逃延て

まの何

橋の

上と持

一人の羽

不停を

なる夜を

の上の舟と

名返れ

端の面

雲

映

大砲

銃の



匣

夜あふくと暁後りあふむるあふむるあふむる
消るあふむるあふむるあふむるあふむるあふむる

あふむるあふむるあふむるあふむるあふむるあふむる
あふむるあふむるあふむるあふむるあふむるあふむる

箒の

電

の如く

あふむる

あふむる

あふむる

あふむる

あふむる

あふむる

あふむる

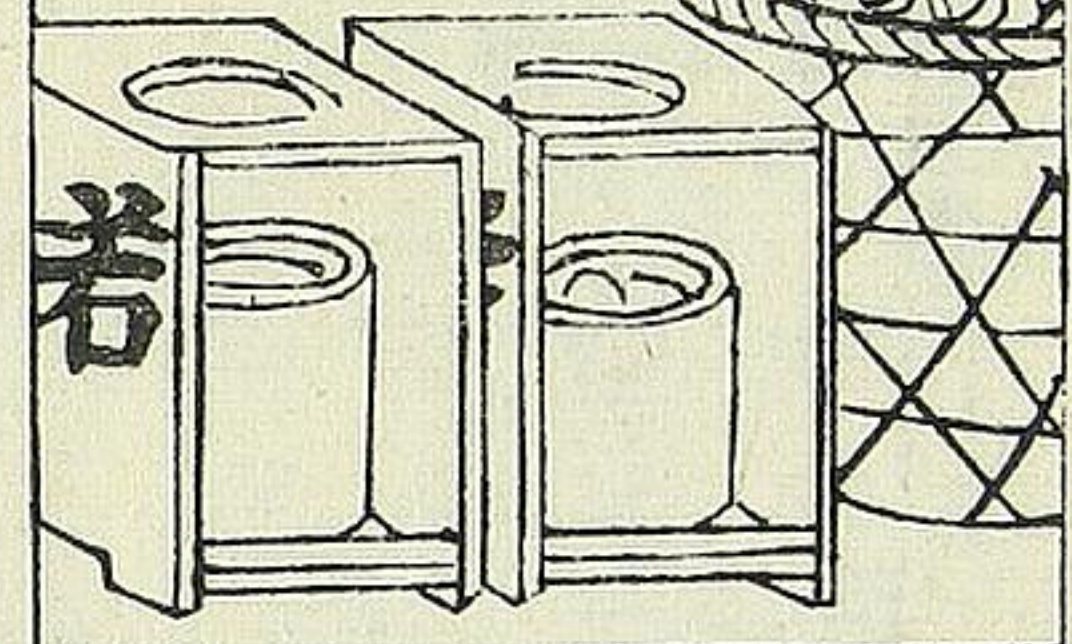
あふむる

あふむる

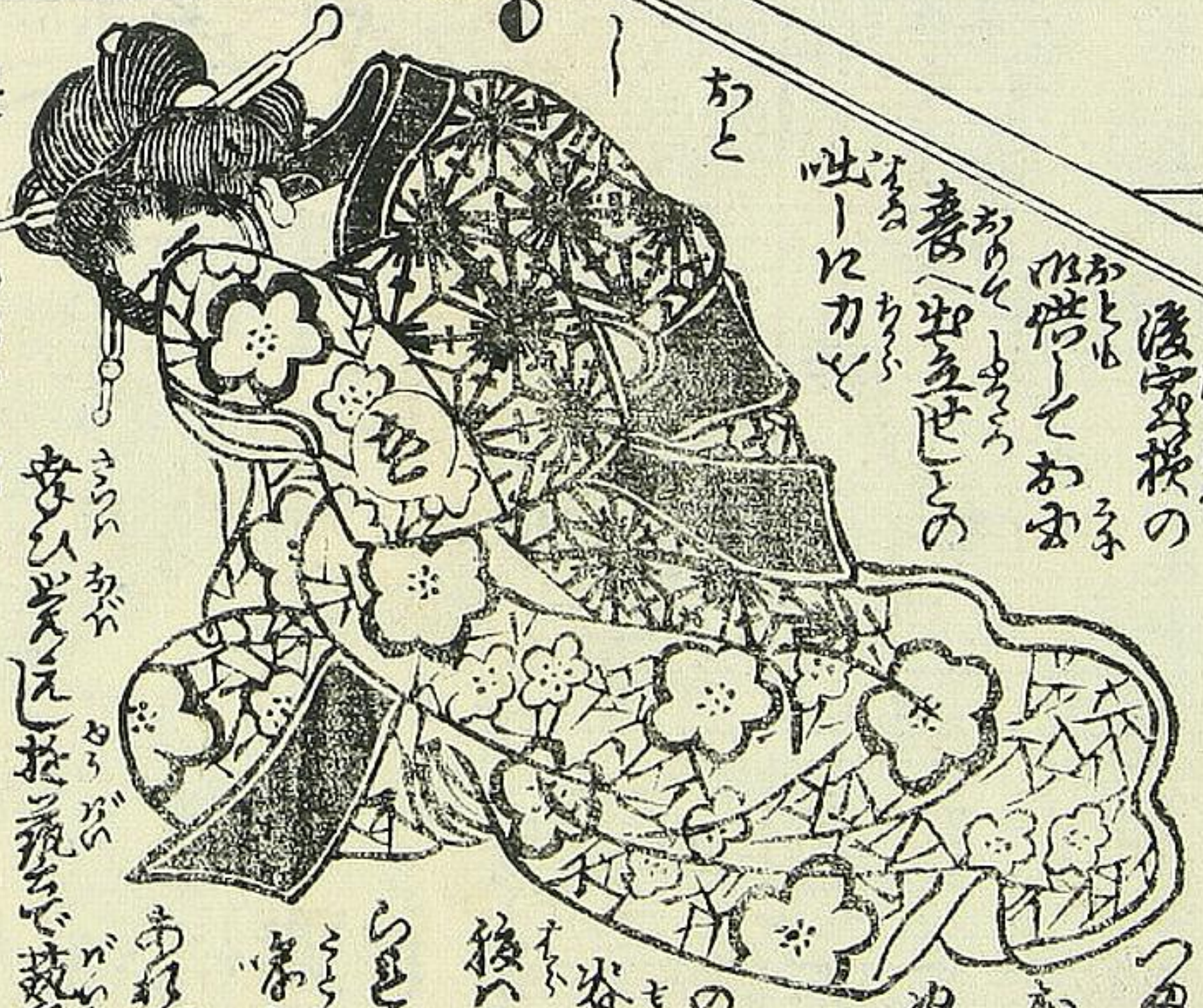
あふむる

あふむる

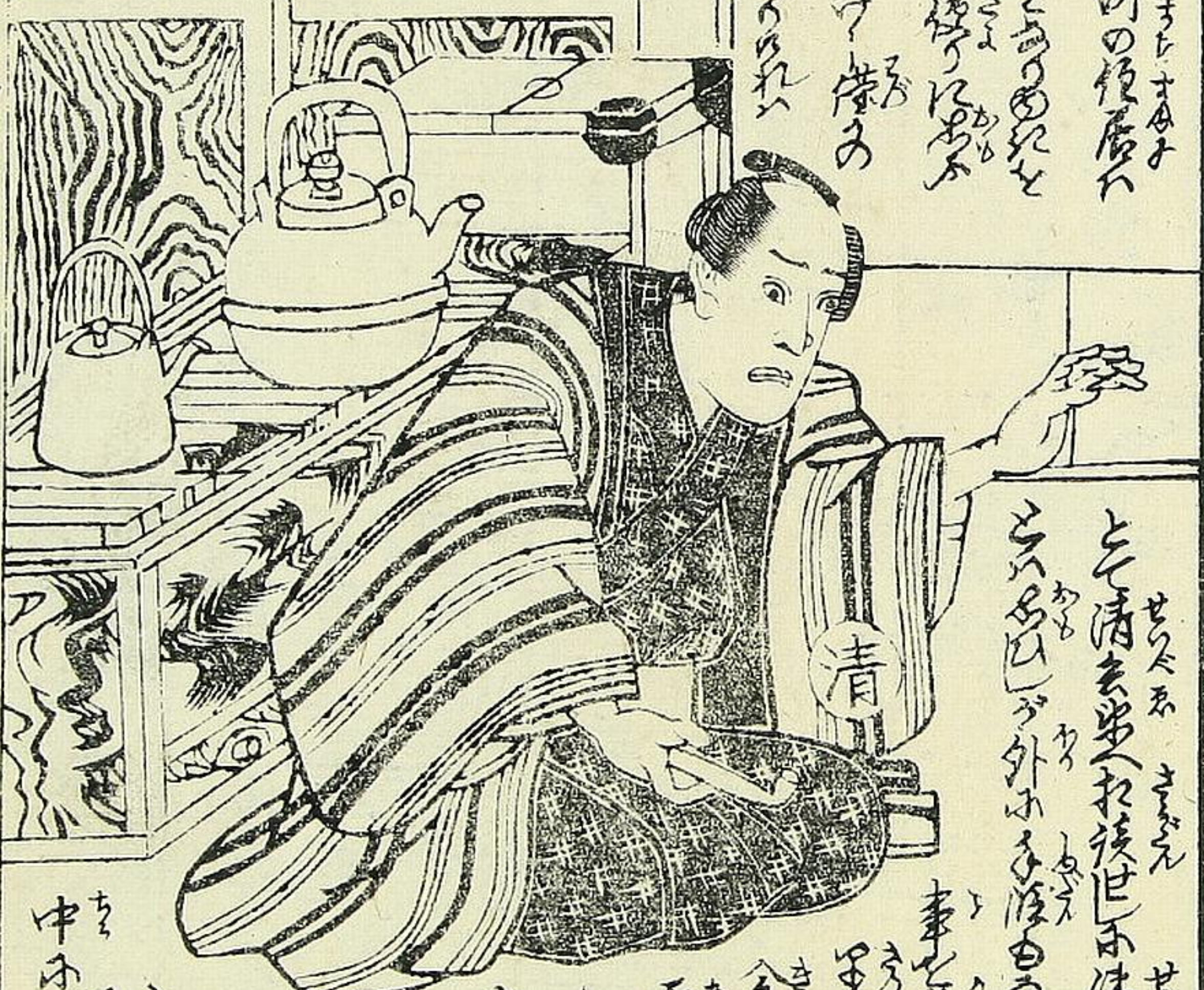
ついでにその毒もあつた
 心ゆく世をまわすので
 おきぬの姉、これぞと
 信をよみまわす
 ぬふあつてのれ
 せねい人もおれも自分にも
 上野の横子も標しお影
 隊の面、これに女軍も付
 さすあられ大官に付死に官様
 あもあつた半がうらな
 清水門よと嘘ふ付死せと



さうな夜に
 吐に力
 毒(世)の
 後(世)の
 清水門よと嘘ふ付死せと



さうな夜に
 吐に力
 毒(世)の
 後(世)の
 清水門よと嘘ふ付死せと



さうな夜に
 吐に力
 毒(世)の
 後(世)の
 清水門よと嘘ふ付死せと



後まな家内の者乃果責おひ

○十六七の
金と

金平と波
源世ありてある目
弟小文利七と名
目と手ねて影の
悪事押匿し後

夜七風四ノ中



訓解の客も内小正して値も多のうけ以軍帰りの友軍が金拾いの
祝ひを令と情をね控ぬふりも扱れいひまゆされ多くの祝儀を
其ふの本令ハ以方の首骨も忘は浮て月日を送りつ
け上るに業を遊と怪いあぞ
浅まうと目

人の酔ひ盛んはて悪運の
天も交小務ゆ能いよとやまふ
柿を遠るるもあむも田
の悪戯で入道されまあめ
金を受給て取つて元がは後
紀南の守り松坂屋の掛合
下まゆのまはるる元ハ一先
温氣を冷まよしとあひ

松井の
先ハ



つぎの江戸の何となく強しき牧家之田舎
 がらみホドあるん之世代を仕舞て
 尋ね来りしと偽りのよき
 知らぬ者の利七の世
 客をばて取扱ひ忙し
 き時の泪の利七の世
 世に暮らう狡猾せき及
 掛合の行届けの遠海
 店の万のちとせせらる
 よう今の世
 老ども

儲け
 心の
 心と月
 ひ身の
 二の擧げ
 あり利七の
 世の面より
 那の人の層
 情と嬉あて
 ぐつ死あぶらも
 がとあとも流る
 志とへのひねて
 鳥疎しく招ふ



あめぬ
 小五郎を達とふも不
 朝合の世の苗字の小の字とありこ
 苗字の林と合せて小林と
 名々其後を名々入を平と改め慈姑の苗字の
 延こときい大坂を小坂と改め慈姑の苗字の
 容男と改めし若ものゆきあて
 那もか尋ね入不取らる所の
 用心あれど情もあるもの
 あらねばいふの人とて奴才が
 どの弟の利七の世とあるは近所の金で活用して
 令彼は外越の掛合の金とれむはつひの金とて
 りすのころを旁よりれ抽とるものよき年あゆりに
 どの金とけられぬと妻利で彼方へ交付金角もの

小五郎の金平由
 世居つらぬ
 交付金角もの
 残らぬ
 返りし世の
 名も
 四
 の二月
 時月大垣
 の
 東系表也 次

國を突利地方へ日毎の探小其隊を繰出さるゝもの事あり
 是れを令平が事と察し之に交り大垣藩の川田と云ふ者
 こそ後者とあつて越前路へ出張する事不承一うらまへ
 舟利と別名を多隊の中へ入つて越前へ赴きしに
 事より大垣の探偵使の備を備とせし
 人の逃るゝをいひつゝ人々を捕へて進むもの
 内へ醫者共の心ゆゑもあつた其の
 者や病人の死扱ひひらき探偵
 よう探中あつた探中もこれ出
 張中と何と云ふものあり
 今と河水のあつた事多敷多敷の
 慮せしめ上敷と殺して今を報へて捕
 せし事救世といふ故に是も千あつたといふ終と



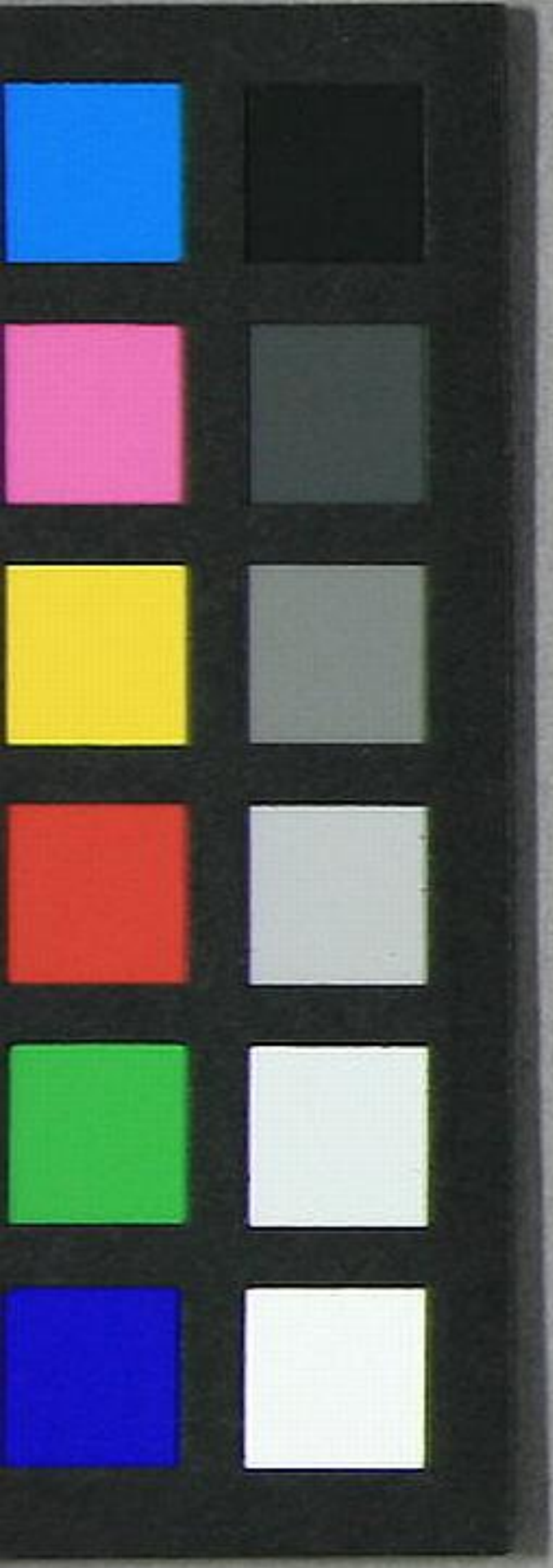
買ひとらに
 小林金
 平と
 表れを
 掲げ金
 の事
 後相
 小常一なる故
 第一編を人
 なることと云ふ事林を達

かの近き逸玉あつた中へあつたもの事あり
 協と切揚との事ありも出張の探偵
 東京の新多と交代あつたもの事あり
 小一足ぬを捕へし一歩あり
 政事もあつた探偵の事あり
 群小ありあつた探偵の事あり
 と生息隊の附添て再び都へ去
 ありあつた探偵の事あり
 散々あつた探偵の事あり
 密切の探偵あつた探偵の事あり
 つげあつた探偵の事あり
 とそ家内のはたけ家長とも不承探偵といふもの事あり



故に近き逸玉あつた中へあつたもの事あり
 人の身の家探偵
 表れを
 掲げ金
 の事
 後相
 小常一なる故
 第一編を人
 なることと云ふ事林を達



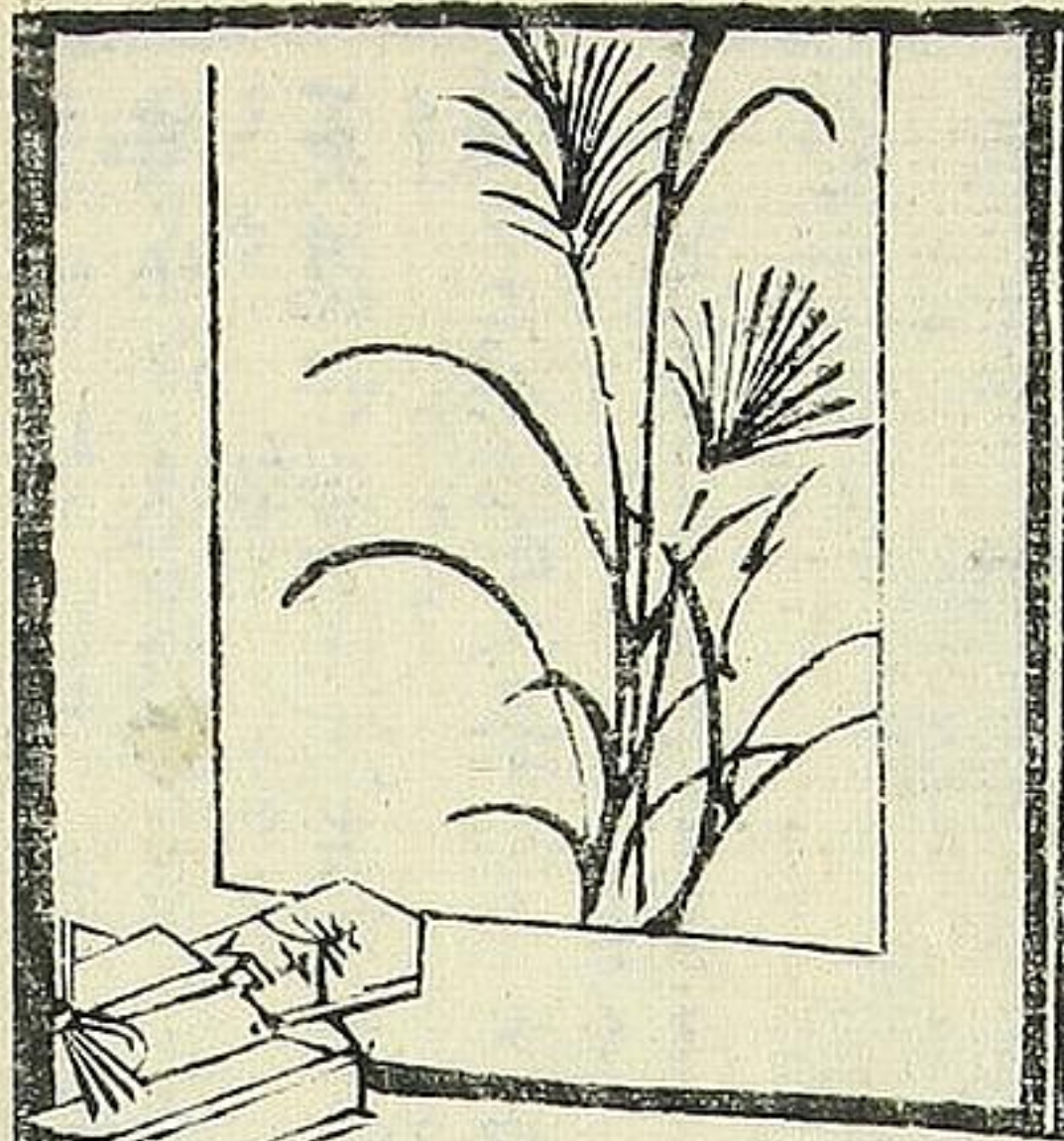


金松堂様

四編下



風も甘きうららかに三月の月と床のたはりの由りす
 たると途のあひ加持や新縁となるとむらあ
 或も侍論若く病人の怪毒とえ
 若丁を丁目よと梅村
 心平の空を借交



小津あまの
 四十五の
 女を召供
 小津保津を
 合平の小橋を
 せうの次牙は
 徳もあまの



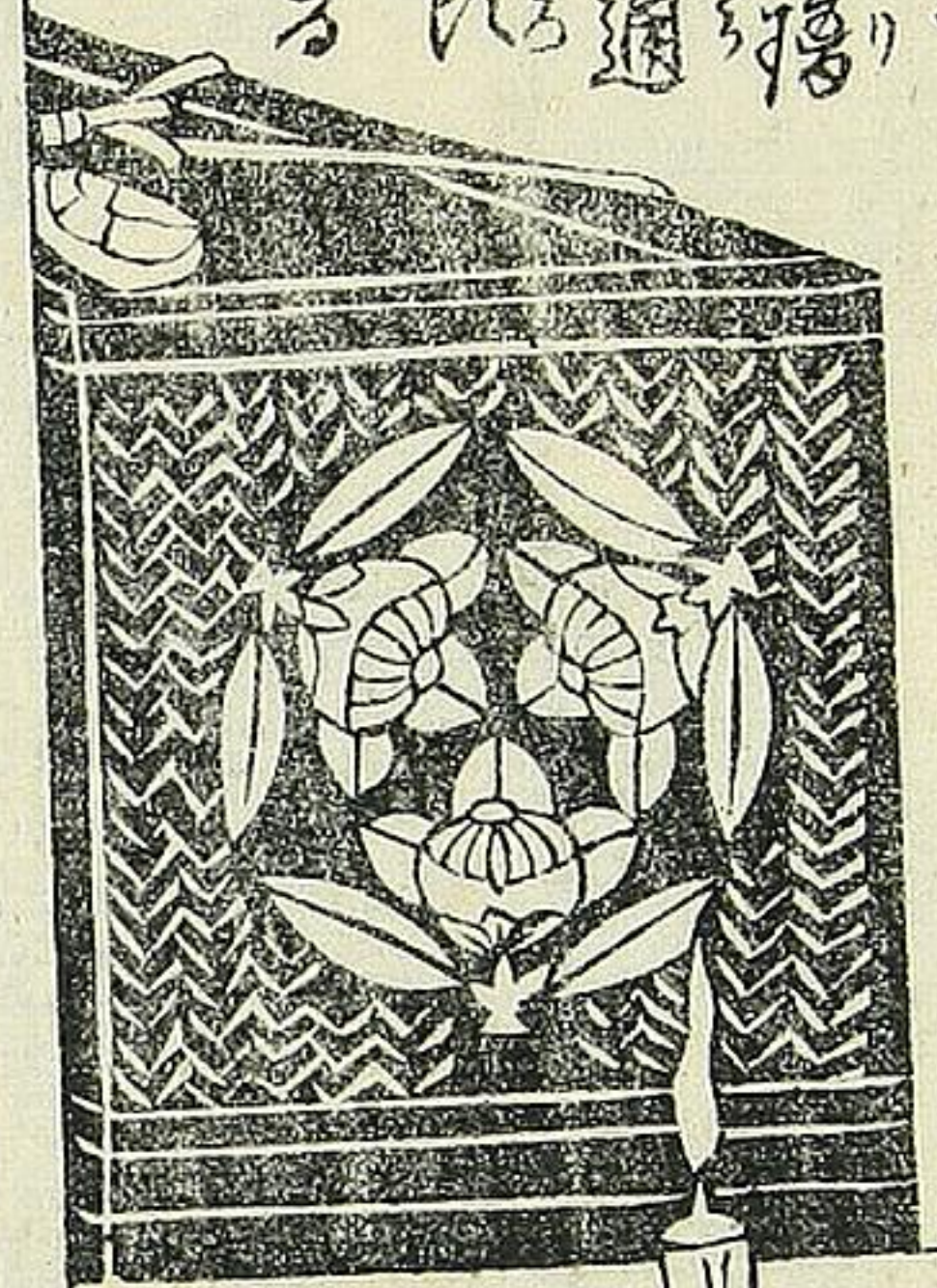
後平にして合平の都人よと水原所不仕む
 若も楽のつらふと都も麻布并橋を

保津を名してあまを
 引つれ芝居見物の
 清くみ出あま果の
 徳の甲乙と振を
 親を振す花鳥を
 合平をド先
 若もあまの
 由知ぬとま

日原の
 ひ

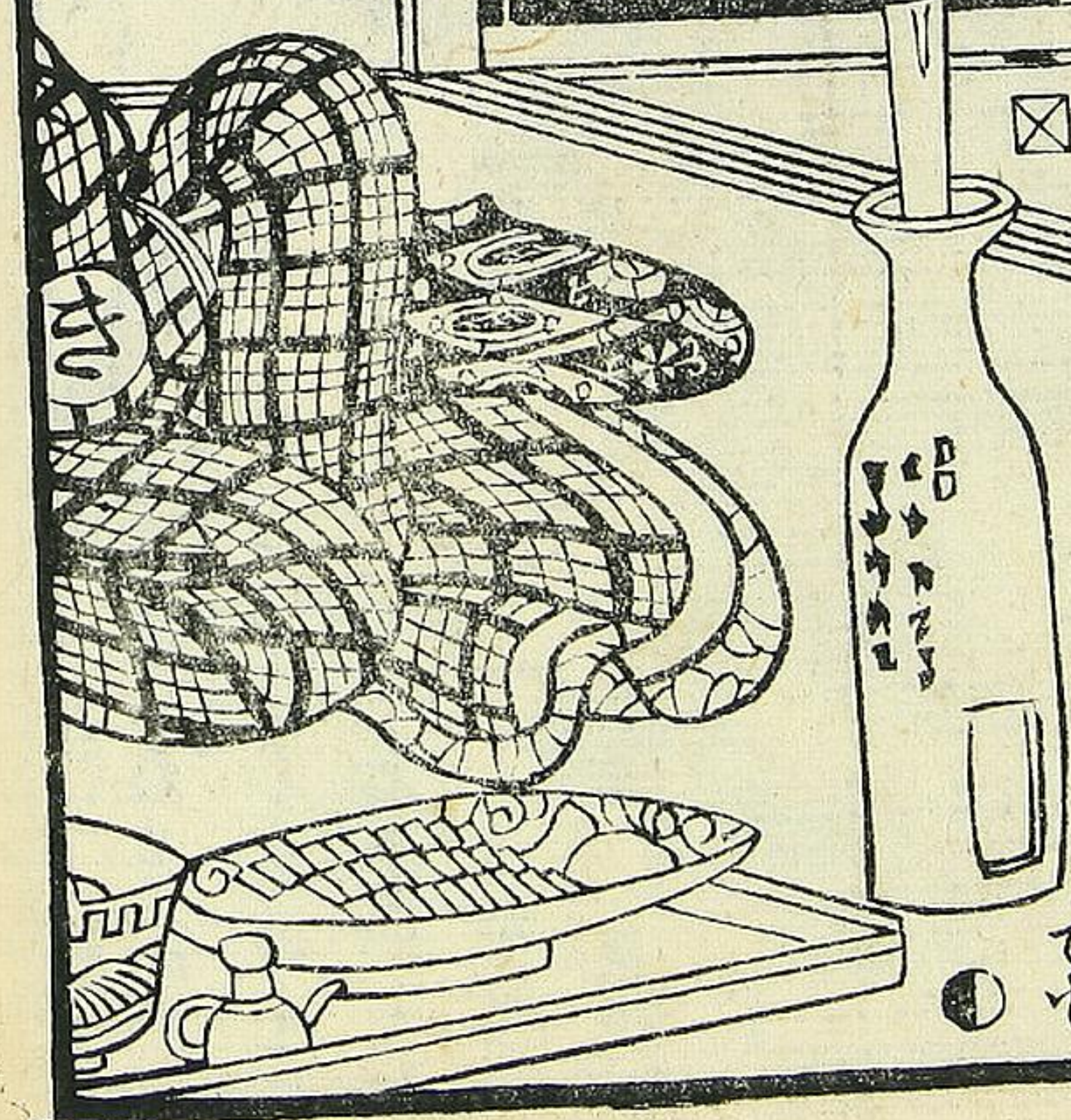
つぎに「かきぬの夜中の人月を色を通ふ
 心の涼草の昔を後に流るるのこのやある
 瑞穂が夜居る尋ねぬ表へ何とぞ
 色かしく空しく愁むとひびきのさむ
 伊之命が瑞穂く形と通
 せしふ日次
 ひのきふき
 空るね」

▲まづくはてと...
 往後一通しお葉よ
 紅葉子とわらわすうち



△まづの
 らお海
 ひと

△ひびきの瑞穂のうら
 かなとてりよとくちと
 愛敬おちうらまゐる
 方がまゝお宿り



あめーごる
 ぬいひゆに障きり
 小止あされがあきぬ
 態とあ成の体み
 て困つてあやとつが
 ちくとあやとが例より
 け大障ての迷ゆ
 おぬりの出来ます

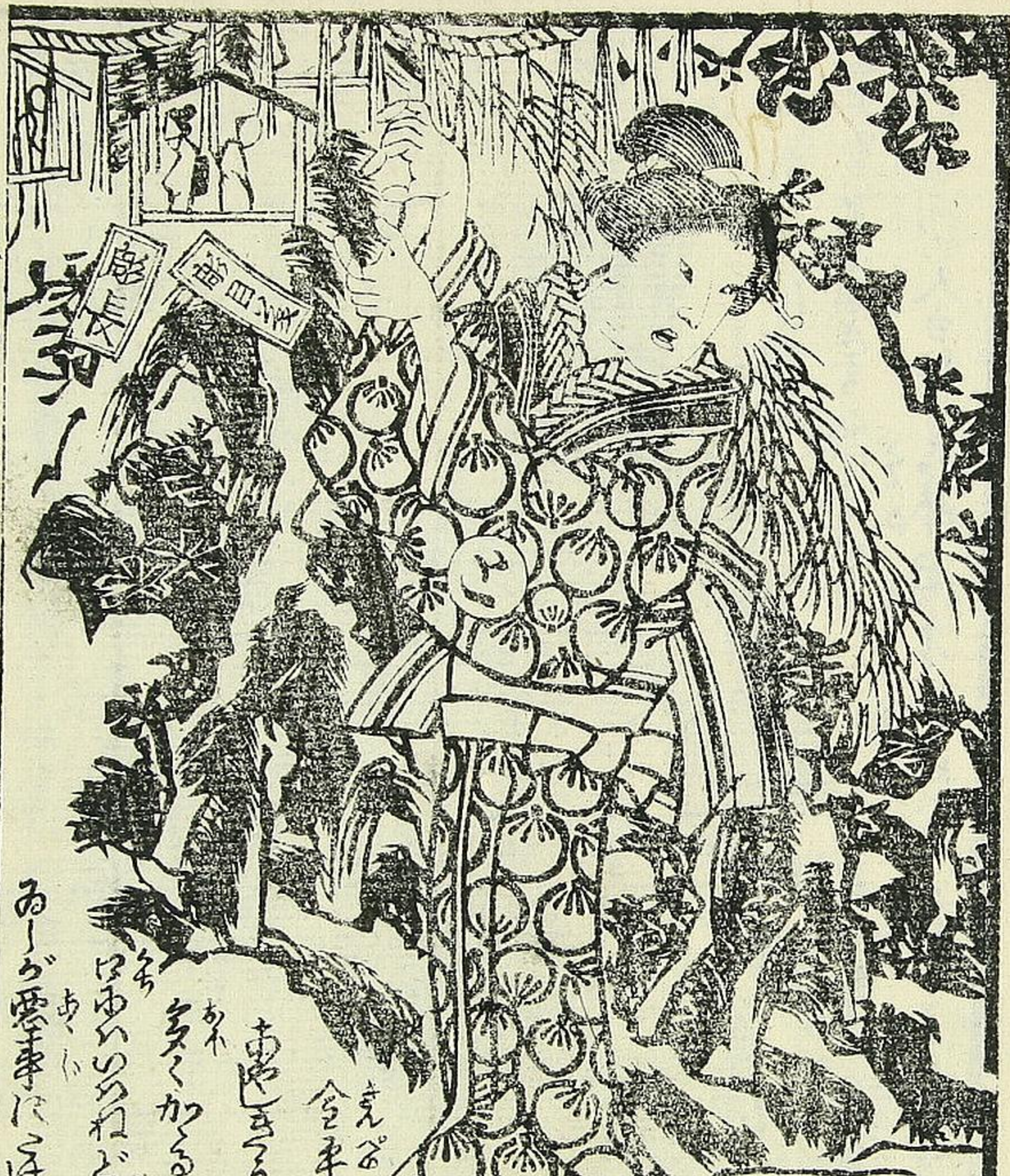
まづの瑞穂のうら

●紋一糸

是の機嫌と云ふ様子を以て假令
 暇と云ふと云く進も歩も入らぬまゝと
 名案とあらじと申せしめ出せしめ此の
 前と後縁ふりしり今く縁切板の利益で
 あれば今後自を以て今年ふりまは
 焦るる機嫌とせむをそれら夫婦に
 ありんとおとをせしめ以て葉勝の菊
 と云ふ物と云く玉子編みへ春情
 小出の帰りの途板橋宿の馬り
 縁切板小糸と云ふ女木の皮を
 剥きて持帰り白湯まで煮
 あり今年が来るまで小糸
 の中へ入てのませり

夕板橋の言を伏拝と極率
 深く思ふあるやおれ申さ
 祈意と云はれ

〇〇はまる
 〇〇はまる
 〇〇はまる



目と云ふと云ふ取
 いらつも機嫌の
 室へはれり
 縁切り
 〇〇はまる
 〇〇はまる
 〇〇はまる

振舞一役も不肖作とせぬのこゝろかとも
 同て輝とる波のまねと引摺のこゝろをまね
 影さる妻のありとる知のまゝあつねが
 まるぬ妻の影のまゝあつねのまゝあつね
 おきぬの影のまゝあつねのまゝあつね
 鴉が待（けん）と
 今宵の
 あはれあつねの影のまゝあつね
 おきぬの影のまゝあつねのまゝあつね
 世と世間の人由知り此非一國をまね
 必らに流るる世
 中への心は由打忘れ入るる心
 必らに流るる世



銅版開化玉編全
 開化女用文章全

近世紀聞
 初編より
 九編迄出版
 以下追々発売
 田島兼二編輯
 高業
 小学
 取引要文全

義烈回天百首全
 金花七變化
 魯文作
 國貞画

新撰 西野古海編輯
 東京全圖全
 濡衣女鳴神
 秀賀作
 國貞画

文
 地本
 錦繪
 問屋
 出版編 明治十年九月廿一日第六大區二小区澤川富岡門前町六十番地
 編輯人 岡本勲 造
 兼天早示小區横山町三丁目二番地
 出版人 辻岡文助



秋風於衣花之仇夢

分四節



明和



近松若菜

与志川の
舟を
けみさ
をのを
かお造つる

65

60

55

